

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。  
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

### 会長メッセージ

「オーストラリアで3番目に大きな都市」とはいえ、人口約200万人のクイーンズランド州の州都ブリスベン。北半球の緯度になぞらえると沖縄のあたりです。気候的には住みやすい街で、活発な資源産業が経済を支えています。

この街で縁あった老若男女の稲門会メンバー

が年に3～4回集まり、稲門会旗の下でお酒を飲みながら楽しい時間を過ごしています。メンバーは企業駐在員が多く、4～5年で帰国する人が多いのが悩みの種。「集まり散じて、人は変われど」ですが、留学生や移住された人々にもぜひ参加していただきたいです。

林田有司(1981年法学)

### 会員からのメッセージ

ブリスベンは自然に恵まれたスポーツ天国で、運動好きにとっては最高の場所です。私もフルマラソン、自転車75キロメートルレースの試合に出ました。また45歳にもなってポディーボード、トレールラン、サーフィンなどに挑戦しています。健康あっての家庭と仕事。在校生、校友の皆さん、ぜひ健康先進都市ブリスベンに遊びに来てください。

木村光一朗(1994年政経)

駐在して約2年半、温暖な気候と大自然の下、趣味の自転車競技やトライアスロンを満喫中です。IRONMANという、水泳3.8キロメートル+自転車180.2キロメートル+ラン42.2キロメートル=計226.2キロメートルで競うトライアスロンがあります。早稲田を起点に例えると、水道橋まで神田川を泳ぎ、そこから自転車で静岡県庁まで走った後、フルマラソンをする感じでしょうか。昨年は幸運にも、世界ランキング年代別上位に付与されるAWA (All World Athlete)というタイトルを獲得でき、ブリスベンという恵まれた練習環境のおかげと感謝しています。

則本達郎(2005年政経)

オーストラリアでおいしいものを食べたい!と言うと、まず案内されるのがステーキハウス。中でも、クイーンズランド州は全豪の牛肉生産の約半分を担う一大「ビーフ州」! 地産地消の小麦や大麦などで育った穀物肥育牛だけでなく、ヘルシーで脂肪の少ない

牧草肥育牛もおすすめで、どちらもおいしいです! ゴールドコースト観光のついでに、車で約1時間のブリスベンまで足を伸ばして、おいしいステーキに舌鼓を打ってはいかがでしょうか?

雲井健司(2007年政経)

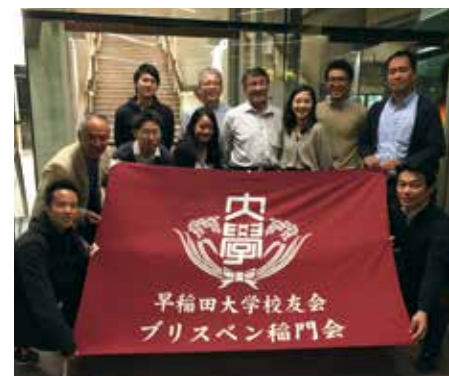
2015年よりブリスベンに着任し、普段は財務モデリングという財務分析を仕事としています。ここで鍛えたスキルを試すべく、16年末に財務モデリングの世界大会(ModelOff)に参加し、なんと世界各地4,000人を超えるアナリストから、予選を勝ち抜いたトップ15としてロンドンに招待されました。トップ3入賞は逃したものの、言葉にし難いあの異様な緊張感は最高の経験となりました。次回も開催地ニューヨークを目指して頑張ります!

吉村 翔(2010年理工)

2016年半ばよりブリスベンに駐在しています。こちらでは1トンピックアップトラックとSUV (Sport Utility Vehicle)を輸入販売する会社に出向し、日々オージーをはじめ多国籍な仲間たちに囲まれながら仕事をしています。オーストラリアでは1トンピックアップトラックはUTE (Utility Vehicleの略)という愛称で呼ばれ、さまざまな用途に使用されています。私の愛車ももちろんUTE。買い物でもゴルフでも大活躍です!

菅野満里菜(2011年法学)

### ブリスベン稲門会について



ブリスベン稲門会は2013年に設立され、今年で丸4年となりました。駐在員、留学中の学生など、会員は現在約20人です。主な活動内容は懇親会や歓送迎会ですが、慶應義塾大学・同志社大学のブリスベン会との合同会合など、交流の幅が広がっています。

今後、ゴルフコンペの開催や、早稲田に留学経験のあるオーストラリア人との会合など、「稲門会」を通じて人々と交流を図り、ブリスベン稲門会を発展させていきたいと思えます。

森田紀彦(1992年政経)

懇親会

### ブリスベンの魅力

少し前までは大きめの田舎町といった印象のブリスベンも、ここ数年で高層ビルが何棟も建ち、街の趣も随分と変わりました。モスバーガー、ユニクロ、ダイソーなど、われわれ日本人にはなじみの店も多くなりました。オーストラリアはもともと多民族国家ですが、近年はアジア、アフリカ、中東からの移民も増え、食文化はさらに多彩になったように感じられます。地価上昇、移民や他州から移動してくる人々の増加に伴うアパートの過剰供給や土地の分割など、都会ならではの住宅事情の悪化もみられますが、それでも大都市シドニーやメルボルンに比べて、ブリスベンはまだゆったりとしているのではないのでしょうか。

ブリスベンの魅力は、何と云っても、年間晴天率300日の穏やかな気候と街中のアウトドア設備。あちらこちらにパーベキュー設備の整った公園があり、川沿いには歩道と自転車道が整備されています。街を囲むブリスベン川には人々が通勤や観光で使う小型フェリーが行き交い、人々もおおらかな気質の人が多くいるように思われます。コアラやカンガルーに直接触れ合うことができるローン・バインコアラ保護区もあります。都会と田舎の融合が実現された街、それがブリスベンです。

加納寛之(1991年法学、95年法研修)



(上)じかに触れることができるコアラ

(下)市内を流れるブリスベン川とストーリー橋

10月、春の到来を告げるジャカラランダ